十一面千手千眼観音菩薩像

千の手と千の目であらゆる生き物を助ける観音菩薩

成田山新勝寺（手は 42 本）

大阪の葛井寺（手は 1,039 本）

千手観音(せんじゅかんのん)とは？

千手千眼観自在菩薩というのが正しい名前であり、千本の手がありその手の掌には目が付いている。千の手と目はどんな人達でも漏らさず救済しようとする広大無限の慈悲の心を表している。
観音の中でも功徳が大きく、観音の中の王という意味で「蓮華王」と呼ばれることもある。
阿修羅や金剛力士などの二十八部衆を配下にしている。また、六観音の一つに数えられ餓鬼道に迷う人々を救うとされる。
ねずみ年の人々を守護する守り本尊でもあり、ねずみ年に生まれた人々の開運、厄除け、祈願成就を助けるといわれている。

ご利益

災難、延命、病気治癒などあらゆる現世利益にご利益があり、難産や夫婦円満、恋愛成就にも功徳があるとされる。また、子年の守り本尊である。

千手観音(せんじゅかんのん)の像容

通常は千本の手を４２本の手に省略している。
頭の上には十一面観音と同じく十一面の顔があることが多い。
一般的な造形例では、11 の顔と 42 本の腕を持つ仏とし表現されている（十一面四十二臂像)、これは、中央で合掌する 2 本の手を除いた 40 本の腕で、一手が二十五有界の衆生をすくい四十手に二十五を乗じて千手といい，一手ごとに一眼を持っているので千眼という。
ヒンドゥー教の影響を受けて成立した変化観音のひとつです。また、六観音のひとつともされ、六道のうち地獄を救う仏でもあります
奈良唐招提寺金堂像（立像)、大阪葛井寺本尊像（坐像)、京都寿宝寺本尊像（立像）などは、実際に千本の手を表現した作例である。像高 5m を超える唐招提寺像は大手が 42 本で、大手の隙間に多数の小手（現存 953 本という）を表す。葛井寺像は、大手が 40 本（宝鉢手をつくらない)、小手は 1,001 本である。小手は正面から見ると像本体から直接生えているように見えるが、実は、像背後に立てた 2 本の支柱にびっしりと小手が取り付けられている。葛井寺像の大手・小手の掌には、絵具で「眼」が描かれていたことがわずかに残る痕跡から判明し、文字通り「千手千眼」を表したものであった。

有名寺院と像

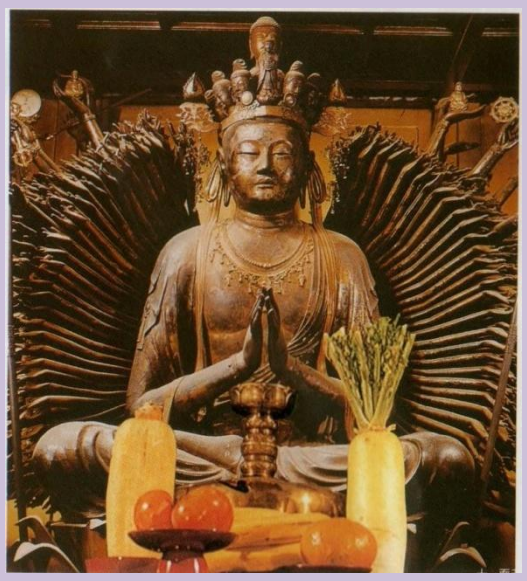
京都：三十三間堂　　1000 体の千手観音が並んでいる。実際は 1,001 体である。

本尊（千手観音坐像）（中尊）が中央に、脇仏（千手観音立像）が左右に 500 対ずつがあります。

1000本の手を持つ十一面千手千眼観音菩薩像があるお寺

1000 本の手を持つ千手観音像の傑作は、奈良唐招提寺、大阪葛井寺、京都寿寶寺にあります。

奈良唐招提寺（とうしょうだいじ）
奈良唐招提寺の立像（国宝）



大阪の葛井寺(ふじいでら)
大阪府藤井寺市葛井寺の座像（国宝）

京都の寿寶寺(じゅほうじ)
京都寿宝寺立像（重文）

唐招提寺（とうしょうだいじ）　奈良市五条町 13-46

千手観音立像は、国宝で奈良時代（８世紀）の作　木心乾漆　漆箔高さ 5.36mの立像。
大脇手 42 本、小脇手 911 本、合わせて 953 本の腕があります。元は 1000 本あったと思います。
この千手観音立像は、像高が 5.36m もある巨大さであるが、本体は木心乾漆（かんしつ）という技法で作られています。

葛井寺（ふじいでら）　大阪府藤井寺市藤井寺１丁目

ご本尊の乾漆千手観音坐像（国宝秘仏）は、寺伝によると 725 年（神亀 2）聖武天皇の勅命で奈良時代の名仏師である稽文会(けいもんえ)稽首勲(けいしゅくん)父子が造立（ぞうりゅう）した国宝である。
像高（髻頂部まで）は 130.2cm（頂上仏面を含めた像高は 144.2cm）。胸前で合掌する 2 本の手を中心に 1039 本の大小の脇手が円形に展開している。
脇手は持物をもつ大手 38 本、小手 1001 本（右 500 本、左 501 本）で、造像当初にはすべての脇手に墨描で眼が表されていたと考えられており、現在も一部の墨描が残存している。合掌手を除く大小の脇手は、像の背後に立てた 2 本の支柱に打ち付けられており本体とは離れているが、正面から見ると像本体から千手が生えているように見える。

寿寶寺(じゅほうじ)　京都府京田辺市三山木塔ノ島廿番地

この寺の千手観音立像は等身大（高さ 181cm）の素木造りで平安時代後期に造立（ぞうりゅう）
実際に千の手を持っています。持ち物のない手には墨で目が印されています。
この像は白木造りであるが、像は真っ黒に輝き虫食い等もなくいたんでいないのは、本堂で毎日行われる護摩祈祷時に護摩木を焚く為、煙によるものであろう。